

とこなめ陶の森 陶芸研究所

募集 研修生



TOKONAME

TOUNOMORI

Ceramics Lab and Training Studio

とこなめ陶の森 陶芸研究所



陶芸研究所

研修は、主に陶芸研究所と研修工房にて行われます。
陶芸研究所の建物は、建築家・故堀口捨己氏により設計され、全国から建築ファンが訪れます。
陶芸研究所に隣接する資料館は、古くからの常滑の人々とやきものとの係わりを学ぶことができる施設です。

研修工房

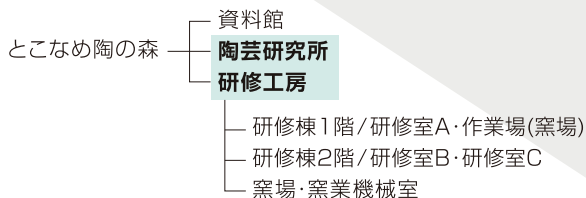
資料館



とこなめ陶の森 陶芸研究所は、伊奈製陶株式会社(現(株)LIXIL)の創業者、故伊奈長三郎氏が常滑陶芸の興隆を念願し、多額の株を市に寄附され、その資金を基に昭和36年10月に本館やアトリエなどが建設されました。

開所当時から若手陶芸家の育成に努め、これまでに多くの研修生が巣立ち、中には世界的に活躍している陶芸家もいます。

とこなめ陶の森は平成24年4月1日から、新たに資料館・陶芸研究所・研修工房の3施設でスタートし、やきもの文化の創造と発信の地として、陶業・陶芸の研究・研修の拠点として、また常滑焼の振興と伝承の地として一体的に設立しました。



伊奈 長三郎 - 常滑陶業界の偉人



いな ちょうざぶろう (1890-1980)

『巧と業の協奏』より

伊奈製陶(株)(現(株)LIXIL)の創業者で、初代常滑市長を務めた常滑市名誉市民です。頁岩陶土使用の開発、土管やタイル、衛生陶器を代表する建築用陶器の総合一貫生産など、常滑陶業界に多大な功績を残しました。さらに、常滑の地にやきもの研究、作り手の育成、地場産業の発展のため、常滑市へ自社株式を寄付するなど常滑の陶業陶芸振興に貢献しました。

常滑焼 - 現代までの流れ



自然釉三耳壺
(平安時代末期)

常滑は平安時代末期から現在までやきもの伝統が息づいており、日本六古窯(瀬戸、常滑、信楽、丹波、備前、越前)の一つとして知られています。

中世の頃に焼かれた常滑の甕や三筋壺は「古常滑」と呼ばれ、伊勢湾から全国へと流通していたことが明らかとなっています。江戸時代後期には煎茶具の生産も盛んとなり、朱泥焼の急須は高い評価を受けています。近代に入ると、土管や陶彫、衛生陶器、テラコッタやタイルなどの建築陶器の一大生産地としても知られるようになり、陶業陶芸の街として確固たる地位を築きました。



募集内容

人数 5人程度

研修期間 2年(1年のみの研修不可)

研修日 毎週火曜日～土曜日(週5日)

研修時間 午前8時30分～午後5時00分

休日 日曜日・月曜日、祝日、お盆休み、年末年始(日曜日、祝日、お盆休みは自己研修可)

応募資格 満40歳未満の人。大学・高等学校卒業及び卒業見込みの人 又は高等学校卒業と同程度の知識及び技能があると認められる人。研修期間を通じ熱意を持って研修に専念できる人。研修修了後、引き続き陶業・陶芸を仕事として継続する意思のある人。

※外国籍の人の場合は、日本語検定4級以上の資格を有していること

研修費用 受講料：月額2万円。入所金は徴収しない。研修に要する燃料費・材料費等は、常滑市が負担。特別企画の講習会・見学会等の参加費用、個人所有の道具類・材料費等は研修生負担。

※詳しくは、別紙・研修生募集要項を参照

実施方針

常滑焼の伝統技法及び表現を習得して、自ら新しい価値観を生み出し、社会で活躍する人材を育成する

研修カリキュラム

2年間の研修制度では、地元の職人・作家を毎日、日替わりで講師に迎え、1学年5人程度の少人数で個々に合わせた指導を行います。

より多い種類の土とやきものの原料に触れられ、ガス窯を中心に焼成もしっかり学べるカリキュラムを行っています。

1年次	初心者から経験者までに対応しながら、やきものの基礎技術を生かした観察力と発想力を付ける。- 小物ロクロ技法・手びねり技法・造形技法・鑄込み技法・装飾技法・絵付け技法・摸刻技法・常滑の原土から土作り・釉薬原料基礎
2年次	応用技術・知識を習得しながら、各自で専攻テーマを設定して自主的な制作へ展開する。- 大物ロクロ技法・急須ロクロ技法・タタラによる石高型抜き技法・多種類の土の扱い・釉薬原料応用・修了制作
共通	陶磁史・現代陶芸概論・デザイン概論・ガス窯・薪窯焼成技術・築窯技術・楽焼技法・商業マーケティング・茶道・華道・公募展出品
特別授業	作家・デザイナー等による講演会など

Voice

修了生の声



修了生

角掛 政志

第10期生 (平成4年度)

〔入所希望者へのメッセージ〕

研究所には、色々な設備が整っています。食欲に活用して下さい。あと同じ目標を持つ仲間との2年間を、有意義なものにして下さい。

やきものを職業としていこうと思い、陶芸研究所へ入所することができました。今にして思えば本当に無謀だったと思います。しかし、研究所での1年間は物を夢中で作る楽しさを体験できた貴重な時間と場所です。そして、ここが自分にとって、やきもの屋のスタート地点でもあります。



修了生

白倉 えみ

第11期生 (平成5年度)

〔入所希望者へのメッセージ〕

今の研修期間は2年間なのでね。羨ましく思います。またなんと魅力的な先生方！貴重な体験、有意義な時間となることでしょう。

常滑という土地には外から来るものを受け入れる包容力のようなものがあると感じます。それは半島の海に開放された土地であるからかもしれません。研修生として常滑で過ごした1年、お世話になった先生方や職員の方々だけでなく、まちのいろいろな方々に気にかけていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。今でもその時間は宝物で、学んだことはやきものだけではないと思っています。才能はなくとも、こうしてなんとか続けられていることに感謝しつつ、今を過ごしています。



修了生

平沼 秀祐

第34期生 (平成28年度)

〔入所希望者へのメッセージ〕

自分の目標に向かって、自分自身と向き合うことで陶芸研究所での2年間の研修を有意義なものにして下さい。

家業を継ぐことがきっかけで、陶芸研究所に入所することを決めました。今まで身近にやきものがありました。常滑に来て陶芸を学び始めた私には毎日の研修が新鮮でした。2年間陶芸研究所で学んだことで、もの作りの楽しさを知り、今後の制作活動や家業を続けて行く基礎となりました。受け入れてくれた常滑と、たくさんの出会いに感謝しています。



窯場

窯の作業を行う場所です。小さな窯では、色々な焼成を試みることができ、大きな窯では、大作にも挑めます。



研修室A

1年生が仲間と、やきものの基礎を学ぶ場所です。窓の外は緑が多く、集中できる環境が整っています。



研修室C

釉薬の調合テストを行う場所です。豊富な種類を揃えた原料で、個々の臨む釉薬を作っていただきます。

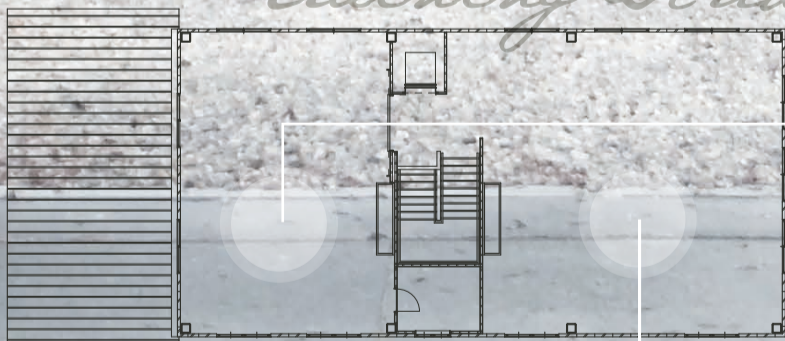


研修室B

2年生が応用製作や急須を学ぶ場所です。作品の数・大きさに対応する広さになっています。



1F



2F

Training Studio

平成24年に新設の研修工房。
やきものを真剣に学ぶ人のための設備が揃っています。

焼成設備

機械設備



▲薪窯(穴窯)



▲ミニ薪窯



▲電気窯(26.5kw、12kw、7kw)



▲ガス窯(1.0㎡、0.7㎡、0.35㎡)



▲施釉ブース

Lectures 講師紹介 (平成30年度講師)

想
う
手
繋
ぐ

杉江 幸治 • Koji Sugie 大物ロクロ



常滑市出身
(公社)日本工芸会正会員
日本伝統工芸展 入選
東海伝統工芸展 授賞4回
常滑市指定無形文化財保持者

谷川 仁 • Hitoshi Tanikawa 小物ロクロ



常滑市出身
水野静仙氏に師事
日展、日本現代工芸美術展 現代工芸賞受賞
現代工芸会員賞受賞 東海展奨励賞受賞
第34回日本現代工芸美術展 審査員、朝日陶芸展
知事賞受賞、'78展 '78賞受賞、テーブルウェア
大賞展 佳作賞受賞、ニュークラフト展 入選、中日
国際陶芸展 入選、現代陶芸めん鉢大賞展 入選、
日本六古窯現代作家選抜陶芸展 3回出品
など多数受賞

小山 乃文彦 • Nobuhiko Oyama 小物ロクロ



熊本県出身
1991 私立立教大学経済学部中退
1992 常滑市立陶芸研究所修了
1997 常滑にて独立
「日常の器」をテーマに粉引を中心に制作を
続ける。

清水 源二 • Genji Shimizu 急須ロクロ



常滑市出身
焼締めで急須、茶器を主に制作
(公社)日本工芸会正会員
経済産業大臣認定伝統工芸士
常滑市指定無形文化財保持者
瑞宝単光章伝統工芸業務功労受章

加藤 真美 • Mami Kato 手びねり



東海市出身
同志社女子大学中退、常滑市立陶芸研究所
にて学ぶ
第31回 長三賞陶芸展 自由部門 審査員賞
第47回 女流陶芸 NHK京都放送局賞
第21回 庄六賞茶器展 庄六賞
第42回 美濃陶芸展 中日賞
近年は海外を中心に個展・講義・ワークショップ
を行う。名古屋芸術大学非常勤講師

松村 英治 • Eiji Matsumura 造形



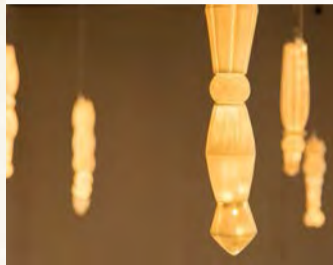
熊本県出身
1992~93 アジア遊行
1995 金沢美術工芸大学彫刻科卒業
1996 パキスタン・アフガニスタン遊行
1997 金沢美術工芸大学大学院彫刻課程
修了
1999 常滑市立陶芸研究所修了
現在 阿久比町の工房にて制作

吉川 千香子 • Chikako Yoshikawa 造形・絵付他



北海道小樽市出身
1970 武蔵野美術大学彫刻科卒業
1974 常滑市に移る
1992 マラ工業大学(マレーシア)にて
国際陶芸交流事業に参加
1999 常滑市作品収蔵、常滑市文化会館に
設置
その他、国内や海外に多くの作品を発表、展示

宇賀 和子 • Kazuko Uga 造形



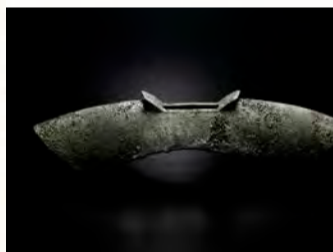
千葉県出身 武蔵野美術大学工芸工業
デザイン学科で陶磁器デザインを学ぶ
1983 長三賞陶芸展 長三賞受賞
2006 出石磁器トリエンナーレ 優秀賞受賞
朝日現代クラフト展 奨励賞受賞
2008 第二回台湾国際陶芸ビエンナーレ
審査員賞受賞 その他
国内外で作品展示及び、チェコ、インド、スペイン、
韓国、コロンビア、中国・景德鎮などでのワーク
ショップやレジデンスなどに参加。

杉江 明美 • Akemi Sugie 絵付



東京都出身
東京芸術大学工芸科卒業
宮之原謙先生に師事
日本陶芸倶楽部勤務
朝日陶芸展 入選、中日国際陶芸展 入選、
朝日現代クラフト展 入選
長三賞陶芸展 第20回記念大賞受賞

水上 勝夫 • Katsuo Mizukami デザイン装飾



常滑市出身
1979 金沢美術工芸大学工芸科卒業
今井政之氏(京都)に師事
1990 朝日陶芸展 '90秀作賞受賞
2009 長三賞現代陶芸展奨励賞 他多数受賞
2010 NHK趣味悠々「やきものの里で
陶芸に親しむ」講師
全国各地で個展、グループ展で活動

津坂 和秀 • Kazuhide Tsusaka 釉薬基礎・応用



名古屋市出身
愛知県芸術大学(講師)
京都市技術伝統産業技術者研修
陶磁器コース(講師)

その他: フィルタープレス、ベルダー、ライカイ機、パフ 等



▲ポットミル ▲ロクロ(15台) ▲土練機(4台) ▲スタンパーミル



やきものの表情は窯によってさまざまに変わります。
とこなめ陶の森 陶芸研究所では
薪窯から大作に挑める大きな窯まで充実しており、
つくりたい意欲にこたえます。

修了後の進路

製陶業独立、常滑市内製陶所(山源陶苑・仁左松製陶・豆青窯・南山陶苑・たちばな焼・千交苑・白山窯等)、常滑市内陶芸教室(株式会社まるぶく等)、常滑市内陶器販売業、常滑市内印刷会社、半田市内エクステリア、県内教育施設、県内博物館、大阪府内陶器製造販売業、市内作家弟子入り 等

入所時・修了後の支援

入所時の住居の確保及び修了後の進路について、面談等により本人の希望を確認した上で、必要な支援を行います。

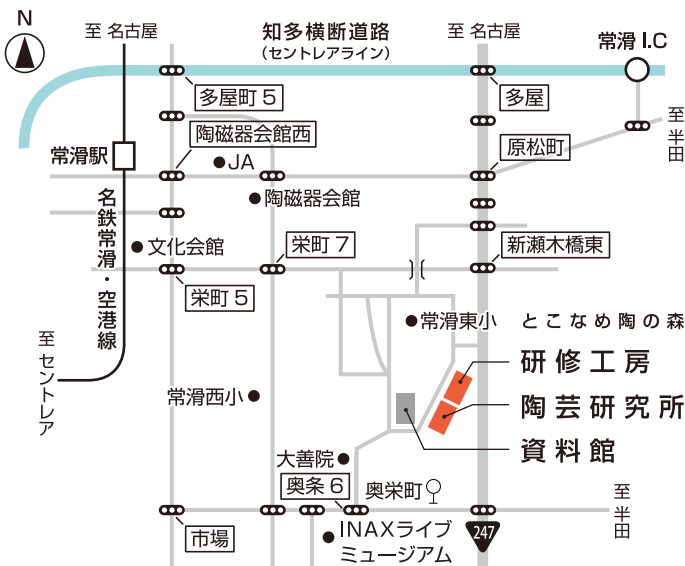
研修生作品



交通アクセス

公共交通機関

- 名鉄常滑駅からタクシーで約5分、徒歩約30分
- 名鉄常滑駅から知多半田駅行きバス「奥栄町」下車、徒歩約7分



車でお越しの場合

- 国道247号
新瀬木橋東交差点から3分



お問い合わせ先

とこなめ陶の森 陶芸研究所

〒479-0822 愛知県常滑市奥栄7丁目2番地

TEL/FAX: 0569-35-3970

E-mail: tounomori@city.tokoname.lg.jp

開館時間 9:00～17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

お知らせ・最新情報

常滑市ホームページ: <http://www.city.tokoname.aichi.jp>

とこなめ陶の森ホームページ: <http://www.tokoname-tounomori.jp> ▲QRコードでアクセスできます

Facebook ページ: [とこなめ陶の森 陶芸研究所](#) |



告知 平成32年度に研修制度の見直しを行う予定です。